

第3章 福岡市水産業総合計画の基本的な考え方

第1節 福岡市水産業の長期ビジョン

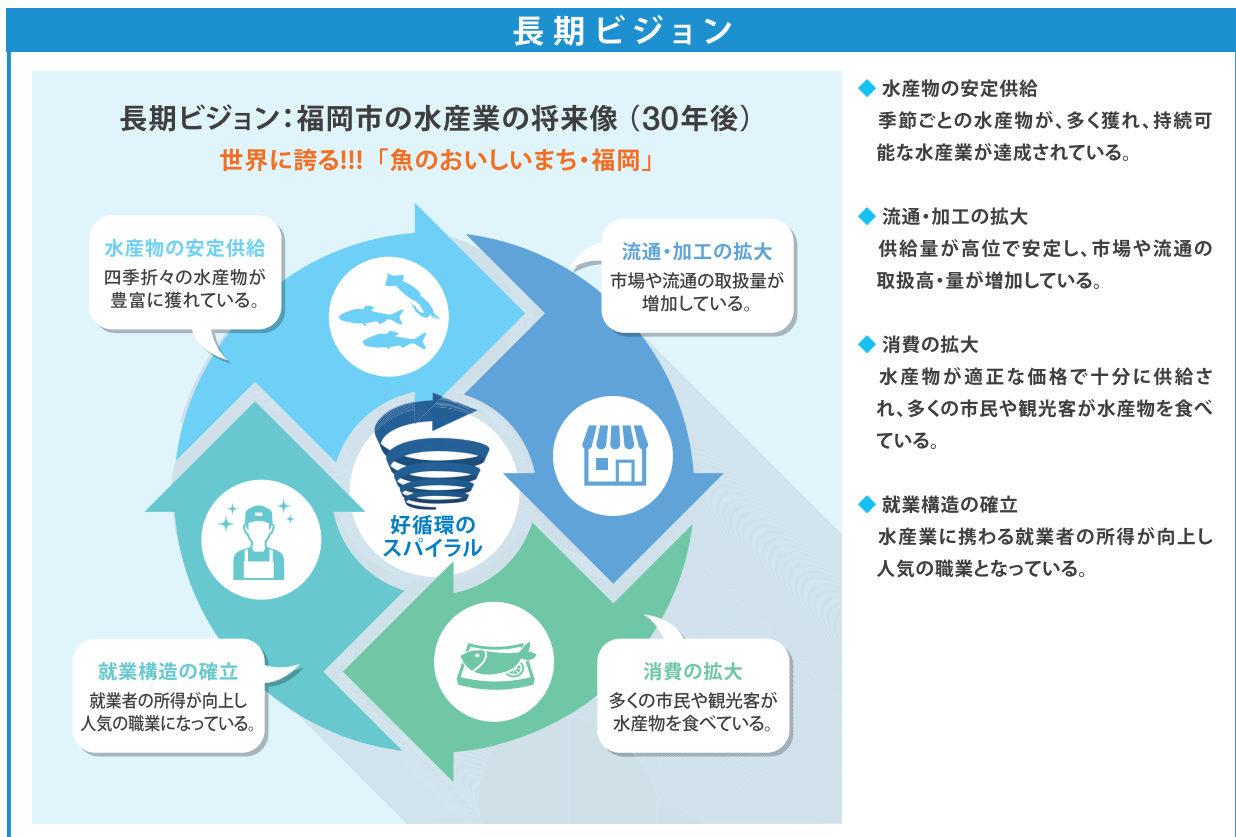
福岡市は、博多湾を抱くように市域が形成され、政令指定都市でありながら、豊かな自然に囲まれており、博多湾の先には玄界灘が広がっています。そこでは、四季折々の新鮮で多彩な海の幸が漁業者により漁獲されています。

都心には、産地市場と大消費地が共存する全国的にも珍しい特徴がある鮮魚市場を有しており、九州一円から新鮮な水産物が集まる流通の拠点となっています。また、鮮魚市場に集まった新鮮な水産物は、多くの飲食店や小売店において提供されています。

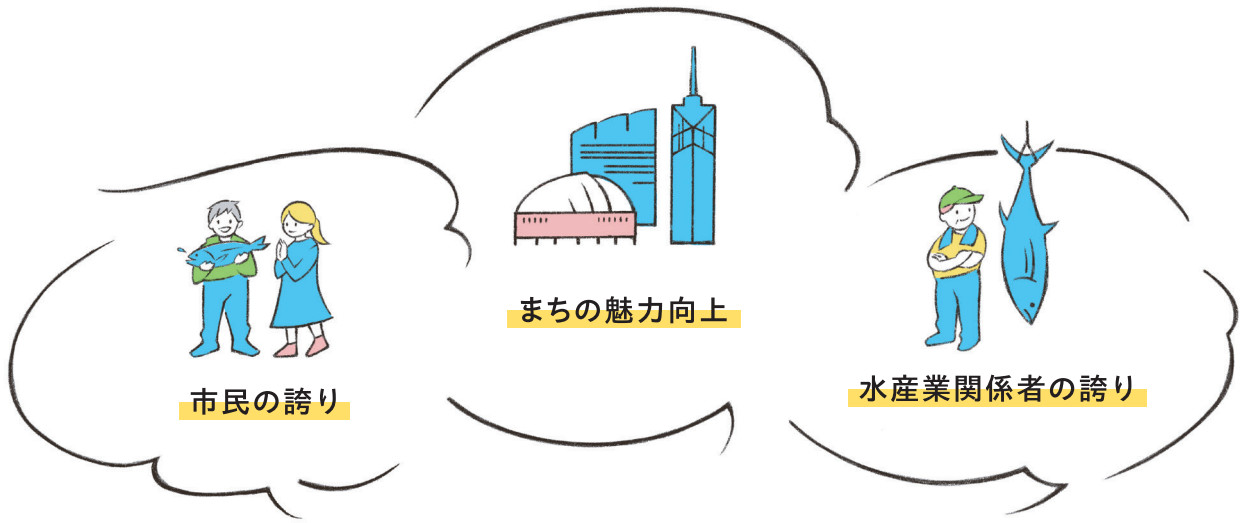
これらにより、多くの市民や観光客から、新鮮でおいしい水産物が食べられる「魚がおいしいまち・福岡」として評価されており、福岡というまちの魅力を支えています。

本計画が目指す30年後の長期ビジョン（福岡市水産業の将来像）については、現状の「魚がおいしいまち・福岡」という評価にさらに磨きをかけ、水産業を通して将来にわたり、市民が「魚がおいしいまち」と誇れるよう、また、水産業関係者が誇りをもって働けるように、“世界に誇る!!!「魚のおいしいまち・福岡」”と定めます。

また、その長期ビジョンを目指すにあたっては、「水産物の安定供給」「流通・加工の拡大」「消費の拡大」「就業構造の確立」という4項目が、好循環のスパイラルとなるよう、漁業者や水産関係者、行政機関等が一体となって取組むための、10年後の水産振興を通して目指す姿を定め、5年間の振興施策を総合的に展開していきます。

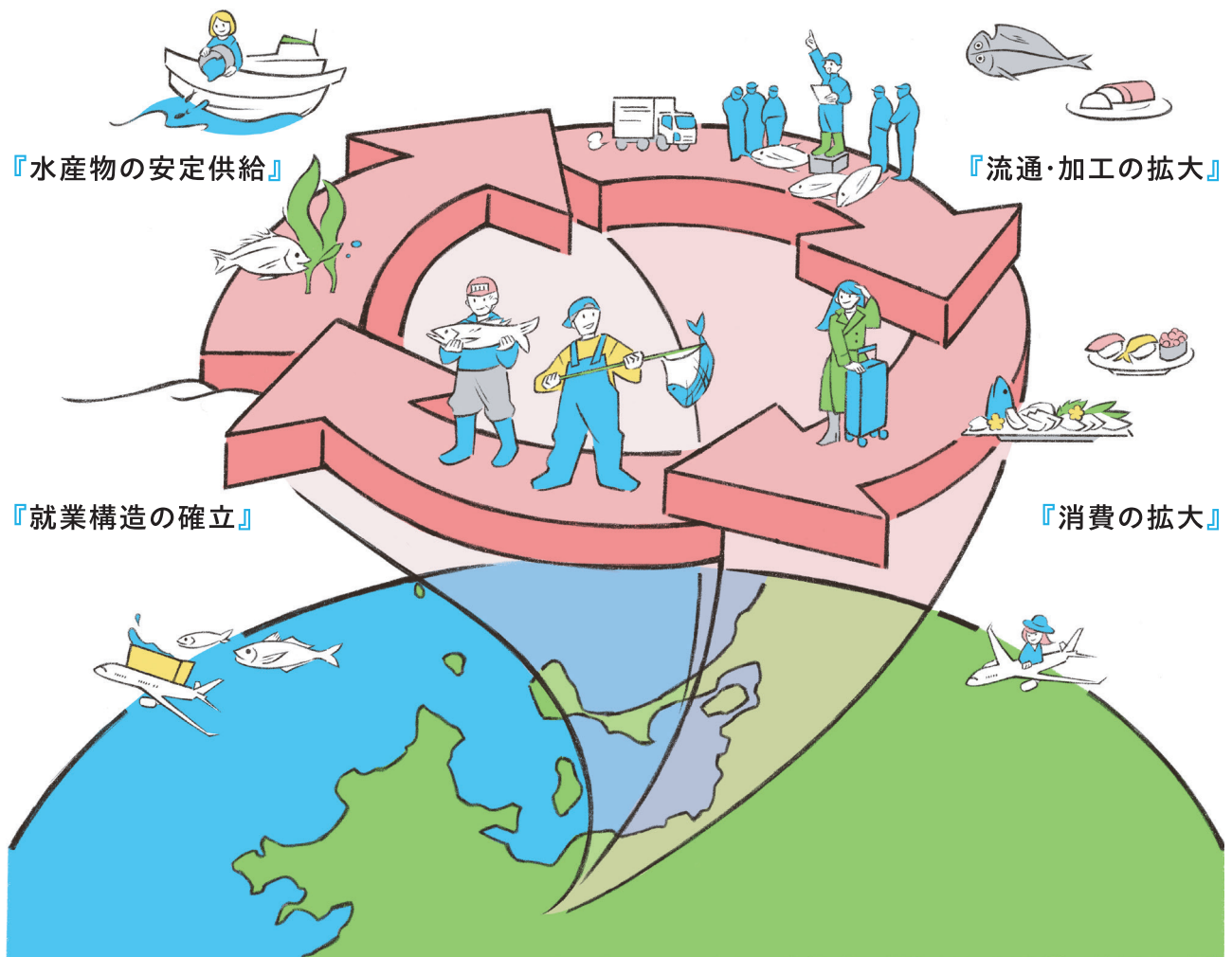


長期ビジョンのイメージ



世界に誇る!!!

魚の美味しいまち・福岡



第2節 計画の基本方針

30年後の長期ビジョンを目指すにあたり、「水産物の安定供給」「流通・加工の拡大」「消費の拡大」「就業構造の確立」の4項目が好循環のスパイラルとなるように、川上から川下までの8つの「10年後の水産振興を通して目指す姿」を基本方針として整理しました。

また、基本方針ごとに、SDGsの17の目標との関係を整理し、本計画の施策を進めることにより、SDGsの推進を図ります。

川上

基本方針 水産振興を通して目指す姿（10年後）

川下

水産物の安定供給 及び 就業構造の確立

- 1

海が豊かで多種多様な水産生物が生息している







- 2

漁業の生産基盤・経営基盤が強化され水産物が豊富に漁獲・生産されている







- 3

多様な主体との協働により養殖業が発展している







- 4

水産資源を活用した直販や交流事業、観光客向け事業などの取組みにより地域活性化が進んでいる





流通・加工の拡大 及び 消費の拡大

- 5

水産物の国内外市場向けの販売の取組みによりブランド化が進んでいる






- 6

流通機能等の強化により水産物が適正な価格で十分に供給されている




- 7

消費の多様化等を捉えた魚食普及が進み消費が拡大している






8

共通事項 ICTなどの先端技術が水産業を支えている